

図書館だより



4月号

2023年4月27日
安田小学校図書館

■さあ、何を读もうかな？

本の貸し出しが始まりました。どの本を读もうかとわくわくしている人がたくさんいますね。

本が好きになるコツは、自分の気に入った本を見つけて、次々に読んでいくことです。読んだ本について誰かとおしゃべりしたくなったら、ぜひ図書館へ来てください。みなさんと本の話をするのを楽しみにしています。



1年生の図書館開き。楽しいお話を聞いて、図書館が大好きになりました。

保護者の皆様へ

本がとても好きで、1年間に300冊近くを借りる子どもに出会ったことがあります。その子に「どうしたら本が好きになるの?」と聞くと、「先生、本を読んだら読んだ数だけ本のことが好きになるんだよ。」と教えてくれました。

本を読むのが楽しいと感じる子供は、どこかで「本を読んだら楽しかった」という経験をしています。そのためには、自分の経験や興味に強く響く1冊に出会わなければなりません。それがどの本なのか、いつ出会うのかは誰にもわからないのです。ですから、小学生の今、なるべくたくさん本を次々と読んでもらいたいと思っています。

今年度、最初の図書の時間に「本の話がたくさんしましょう。」と伝えました。クラス、学年、そして学校全体で本の話が飛び交うような雰囲気づくりをして、本好きな子どもをもっと増やしていきたいと考えています。ご家庭でも、保護者の皆様の読んでいる本や思い出の本の話をして差し上げてください。きっとお子様は目を輝かせて聞かれることと思います。

しおりについて

図書館では、期限票とスタンプカードの両方の役割をする「しおり」を使っています。

しおりは読書冊数の記録として保存するため、カードリングやリボンなどで束ねてご利用ください。しおりの枚数がたまると「これだけ読んだ」という自信につながり「もっと読もう」という意欲を持つことができます。しおりは筆箱ではなく連絡袋で保管します。おうちでも「たくさん借りているね。」「一緒に読みたいな。」と声をかけてくださると励みになります。前の学年のしおりはご家庭で保存されるか、そのままたばね続けていただいてもかまいません。



学年別おすすめの本



国語の教科書にある「〇年生の本だな」から、楽しく読める物語を紹介します。

1年生

『だいくとおにろく 日本の昔話』

松井直/再話 赤羽末吉/画 福音館書店



川にかけてやった橋と引き換えに、目玉をよこせという鬼。だいくが嫌がると「そんなら、おれのなまえをあてればゆるしてやってもええぞ」。日本画を学んだ赤羽が、絵巻物を意識して作画した、迫力ある横長絵本。

2年生

『きいろいばけつ』

もりやまみやこ/作 つちだよしはる/絵 あかね書房

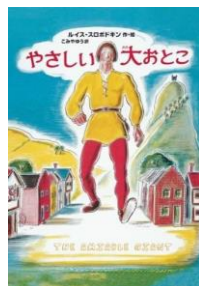


きつねのこが橋のたもとできいろいばけつを見つけました。「ずっとそこにおきっぱなしだったら、きつねくんにしたら。」と友達に言われて、きつねのこは毎日毎日ばけつの所に通います。そしてとうとう約束の1週間がたちました。

3年生

『やさしい大おとこ』

リス・ス昧トキ/作・絵 こみやゆう/訳 徳間書店



大おとこは、山からおりて来ては村人に、友達になりましようと話しかけます。でも、みんなは怖がって耳をふさいでいるのでそれを知りません。そればかりか、悪い魔法使いのせいで村人は大おとこのことをおそろしいどろぼうだと信じ切ってしまう。

4年生

『チョコレート戦争』

大石真/作 北田卓史 理論社



金泉堂のケーキやシュークリームはみんなのあこがれ。ところが、うっとりショーケースをのぞきこんでいた明と光一の目の前で突然ガラスがくだけ散った。子どもたちは、二人を犯人だと決めつける店の人と、ある方法で戦う決心をする。1965年初版の、大人にとって懐かしい名作。

5年生

『空へつづく神話』

富安陽子/作 広瀬弦/絵 偕成社



理子(さとこ)の前に、突然えらそうな「神様」が現れた。昔のことをすべて忘れてしまっている神様の記憶探しをいやいや手伝ううちに、理子は古い土地の名前と不思議な蛾(が)の模様が、何か大切なことを示していることに気づく。そして神様の正体がわかったとき、恐ろしいほどの嵐が町をおそった。

6年生

『弟の戦争』

ロバート・ウェストール/作 原田勝/訳 徳間書店

病的に感受性が豊かで、弱いものが傷つくるのを放っておけない僕の弟。彼は、ある日を境に奇妙な行動をとるようになった。自分のことを湾岸戦争の前線にいるイラク兵だと思い込んでいるのだ。

ごく普通のアメリカの家庭に、弟を通して生々しい戦争が押し入ってくる描写に息がつかまる。振り返って、今、私たちはウクライナのニュースの向こうにある、人の息遣いを感じられているだろうか。